

### 第三回日本モビリティ・マネジメント会議 開催案内

- 主催：(社)土木学会、国土交通省(予定)
- 共催：(社)システム科学研究所
- 会場：京都市国際交流会館  
(京都市左京区粟田口烏井町2-1 tel: 075-752-3010)

- 日時：2008年7月4日(金)～7月5日(土)
- 趣旨：

モビリティ・マネジメント(MM)は、社会心理学や社会学などの「学術的」な知見を基盤とした、人々にコミュニケーションで働きかけることにより交通行動の自発的な変化を促す「実務的」な交通施策です。我が国におけるMM施策が今後も効果的・広範に推進されることを目指して、行政、大学、コンサルタント等のMM関係者が一堂に会する日本モビリティ・マネジメント会議(JCOMM)の第三回会議を開催いたします。

- 発表申し込み：  
下記を明記の上、東京工業大学大学院 藤井研究室 JCOMM 事務局(jcomm@plan.cv.titech.ac.jp)まで、電子メールにてお申し込みください。

- ①発表者・連名者の氏名・所属/勤務先、②連絡先(住所、tel、e-mail)、③MMで使用したツール展示の可否、④発表タイトル、⑤発表概要(300字程度)

※ 発表申込締め切り：2008年4月11日(金)  
※ 発表形式にはポスター発表(ポスター掲示と説明)、口頭発表(スクリーン形式での口頭発表)の2通りありますが、個々の発表の形式については、プログラム編成の都合により、JCOMM 実行委員会にて検討させていただきます。  
※ 発表申し込み無料

- 参加申し込み：  
下記を明記の上、東京工業大学大学院 藤井研究室 JCOMM 事務局(jcomm@plan.cv.titech.ac.jp)まで、電子メールにてお申し込みください。

- ①氏名、②所属/勤務先、③連絡先(住所、tel、e-mail)  
※ 参加申込締め切り日：2008年6月13日(金)  
※ 参加費無料(テキストを当日販売：土木学会より見積・納品・請求書発行可能)

- 詳細：  
URL：http://www.plan.cv.titech.ac.jp/fujilab/jcomm.html

- 問い合わせ先：  
・東京工業大学大学院理工学研究科土木工学専攻 藤井聡  
tel&fax: 03-5734-2590、e-mail: fujii@plan.cv.titech.ac.jp  
・筑波大学大学院システム情報工学研究科リスク工学専攻 谷口綾子  
tel: 029-853-5754、e-mail: taniguchi@risk.tsukuba.ac.jp

▼ JCOMM デザイン賞：  
モビリティ・マネジメントにおける実務的なプロジェクトにおいて実際に使用されたマップ、リーフレット、ポスター、パンフレット等の各種ツールの中でも、とりわけ秀逸なデザインがなされた1個、ないしは、一群のツールについて、個人(複数可)あるいは団体(複数可)を対象として授与する。

- 推薦(応募)の方法  
1) 推薦者：他薦あるいは自薦とする。  
2) 応募書類：別に定める推薦書1部に当該業績の関連資料1部(論文報告書[複数可]、ツール一式等)を添付。なお、JCOMM デザイン賞については、ツールの現物を添付すること。推薦書は下記 JCOMM ホームページよりダウンロードして下さい。  
http://www.plan.cv.titech.ac.jp/fujilab/jcomm/award\_19.html  
3) 提出方法：郵送、e-mail のいずれも可。  
4) 提出先：〒152-8552 東京都目黒区大岡山2-12-1 緑ヶ丘1号館5階516号室 JCOMM 実行委員会事務局 e-mail: jcomm@plan.cv.titech.ac.jp
- 審査：JCOMM 実行委員会において行う。なお、必要のあるときは、さらに関係資料の提出を求めることがある。また、審査の過程で、応募部門とは異なる部門で審査し、賞与する場合もある。
- 表彰：第三回 JCOMM において行う。
- 募集期間：平成20年3月1日(土)～4月11日(金) 必着
- 問い合わせ先：〒152-8552 東京都目黒区大岡山2-12-1 緑ヶ丘1号館5階516号室 JCOMM 実行委員会事務局 tel&fax: 03-5734-2590 (担当：藤井)、e-mail: jcomm@plan.cv.titech.ac.jp

イベント案内  
第三回 JCOMM 開催のお知らせ  
本年七月四日(金)、五日(土) 陽射しも暖かく、春らしくなってきました。今号の JCOMM 通信は、第三回日本モビリティ・マネジメント会議と JCOMM 賞のご案内を中心にお届けします。

に京都で開催を予定している第三回日本モビリティ・マネジメント会議(JCOMM)の詳細が決まりました。本会議では、本年度取り組まれたMMの成果はもろろんのこと、現在構想中のMMの計画や、MMに関連する各種の制度的/研究的な提案や自由なアイデア等、多様なご発表の申し込みを待ちしています。MMについて多面的に議論できる、年に一度の機会です。左記を「

■ JCOMM 賞の趣旨  
国内の様々なモビリティ・マネジメントについての様々な取り組みや研究の中でも、特に優秀な取り組みや研究を JCOMM 実行委員会として選定し、その実現に貢献した者を表彰します。これを通じて、モビリティ

▼ JCOMM プロジェクト賞：  
モビリティ・マネジメントの一連の取り組みの中で実施された「実務的なプロジェクト」の中でも、とりわけ、都市・地域のモビリティの質的改善や渋滞、環境問題、公衆の健康増進問題や都市構造問題などの交通に関連する諸問題の下記を明記解消に向けて、効果的に推進されている一連の持続的マネジメントについては、個人(複数可)あるいは団体(複数可)を対象として授与する。

▼ JCOMM 技術賞：  
モビリティ・マネジメント実務に資する技術の発展に、顕著な貢献をなした「研究業績」について、個人(複数可)を対象に授与する。

**JCOMM 通信**  
日本モビリティ・マネジメント会議 ニュースレター  
Vol.7 ● 2008.3.16  
【発行】 JCOMM 実行委員会  
ニュースレター編集部  
【お問合せ】 東京工業大学 藤井研究室  
筑波大学 都市交通研  
mail: jcomm@plan.cv.titech.ac.jp  
MMに関連する会告掲載希望やご意見等、随時受け付けております。

イベント案内  
平成二十年度 JCOMM 賞候補募集について  
平成二十年度 JCOMM 賞の詳細が決まりました。自薦、他薦を問いませんので、多数のご応募、お待ちしております。

参照の上、ぜひお申し込みください。皆様は京都でお会いできることを楽しみにしております。

ルター、アンケート票等の各種ツールの中でも、とりわけ秀逸なデザインがなされた1個、ないしは、一群のツールについて、個人(複数可)あるいは団体(複数可)を対象として授与する。

## ニッポンのMM 第六回 「京都」での モビリティ・ マネジメント

本年度のJCOMM開催地の京都では、昨年度JCOMMマネジメント賞を受賞した京都府をはじめ、様々な組織がMMを進めています。

例えば京都府では、MMを専ら担当する担当官を設置すると共に、MMの考え方を取り入れた基本計画を策定し、様々なMM施策を多角的に推進しています。代表的な取り組みとしては、運輸局の補助を受けながら実施したワンショツトTFPによって鉄道事業収入が年間二千万円程向上したという宇治職場MMや、工業団地での企業バスを共同化した上でTFPを行う事でバス利用者が倍増したという久世工業団地の事例等が挙げられます。

また市は、地下鉄沿線住民を対象とした居住者MMを展開する一方、国道事務所は地元新聞で「かしこいクルマの使い方」とTFPの参加を呼びかける取り組みを行っています。この後者の取り組みは多くの人々の意識と行動に影響を与え、数億円円の社会的便益をもたらしたとする試算もなされています。

また、府と国道事務所、警察とが連携し、運転免許試験場で年間二十万人以上の免許更新者全員に「かしこいクルマの使い方」を呼びかける情報キットを配布しています。

こうしたMMの取り組みを全てあわせると、平成十九年度の一年間で約一・五万トンのCO2が削減されたという試算がなされています。

さて平成二十年度には、「京都」を冠した国・府・市の行政組織が集まり、各組織のMMの活性化と調整を図るための「京都市圏MM協議会」を設置することが予定されています。京都ではこうした場を活用しながら、様々な組織が「かしこいクルマとつきあう社会」という一つの目標を目指して、話し合い、連携しながらより強力にMMを推進していこうという機運が徐々に育まれてきているのです。

(東京工業大学・藤井聡)



「かしこいクルマの使い方」を考慮するプロジェクト京都」のブランドイメージを表すロゴ。府、市、国のいずれのMMでも同じロゴが使われている。H20より、京都市圏MM協議会がこのロゴの使用の管理を行う予定。

下に記載した、手書きの標語をご覧ください。

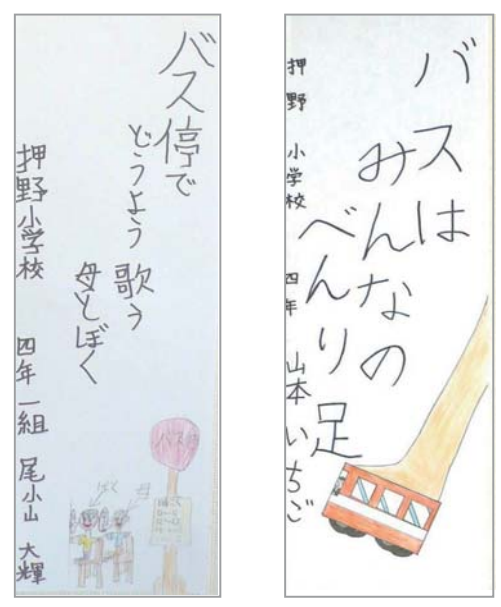
このバス利用促進のための標語は、金沢市で平成十九年度に金沢市立押野小学校で実施された交通エコロジー教室にて、四年生の児童が考えたものです。押野小学校では、一年生から六年生まで一丸となつて、さまざまな授業単元の中で「五・七・五」の文字数で標語などを作る取り組みを進めているそうです。標語とイラストが相まって、とても印象に残るものとなっています。このコーナーでは、何回かに分けてこの取り組みの一部を紹介したいと思えます。

今回ご紹介する一つの短冊(右)は、標語もさることながら、イラストが絶妙な味を出していました。日常生活でバスを気軽に利用する状況を、まさに下駄のようにバスを履いているイラストで表現しています。

二つ目の短冊(左)は、一般にあまり楽しいとは言えないバスの待ち時間が、おかあさんと童謡を歌つて過ごすことで楽しい時間になつていくという標語です。大好きなおかあさんと一緒に過ごすひとときの楽しい雰囲気が伝わってきました。

### 小学生の交通エコロジー標語

vol. 1



#### 情報クリップ

##### ▼書籍紹介

##### 「モビリティ・マネジメント入門」

モビリティ・マネジメントって何だかよくわからない、という方のための入門書として、「モビリティ・マネジメント入門」が学芸出版社より出版されました。

海外と国内の代表的事例を分かりやすく紹介することで、MMの「こころ」を、MMについてあまりに存じない方にもご理解いただきたいという趣旨で取りまとめた書籍です。実務の手引き書である「MMの手引き」とあわせて、MM

取りまとめる際の参考にしたいだければ幸いです。

■モビリティ・マネジメント入門  
「人と社会」を中心に据えた新しい交通戦略  
藤井聡・谷口綾子著 (学芸出版社) 定価 二五二〇円  
概要: <http://www.gakugei-pub.jp/mokuroku/book/ISBN978-4-7615-2426-5.htm>  
目次: <http://www.gakugei-pub.jp/mokuroku/book/5292fujii/mokujii.htm>

